

第8回歴史探訪

「江戸東京たてもの園見学会」のお知らせ

第8回歴史探訪「江戸東京たてもの園見学会」を以下のとおり実施しますので、お知らせいたします。

江戸東京たてもの園は、旧武蔵野郷土館の資料を引き継ぎ、1993年(平成5年)3月28日に開園した野外博物館で、都立小金井公園の一部に、江戸時代から昭和初期までの歴史的建造物を移築し、復元・保存・展示しています。

建物内部には、近世から現代までの生活民俗資料などが展示され、江戸・東京の当時の生活や商業活動の様子はもちろん、武蔵野の風土に即した歴史や生活文化の特性もうかがうことができるような展示内容となっています。

今回の歴史探訪では、この博物館を訪ねて江戸・東京の生活文化の一端に触れ、当時の人々の生に接近するよすがにしたいと思います。当日の解説・案内を江戸東京たてもの園学芸員の松井かおる氏にお願いしました。会員の皆さんのご参加をお待ちしております。

※園内には休憩施設がありますが、一つ一つの建物・展示物を見回ると結構な距離を歩くこととなりますので、運動しやすい格好でご参加されることをおすすめします。

日 時：10月4日(日) 13時～16時30分

集合場所：現地集合(江戸東京たてもの園入口)

■バス

①JR中央線 武蔵小金井駅北口から

西武バス 2・3番のりばより乗車 5分 小金井公園西口下車 徒歩 5分

関東バス 4番のりばより乗車 5分 江戸東京たてもの園前下車 徒歩 3分

②西武新宿線 花小金井駅から

西武バス(小金井街道沿い)南花小金井のりばより武蔵小金井駅行きに乗車 5分 小金井公園西口下車 徒歩 5分

■所在地

〒184-0005 東京都小金井市桜町 3-7-1 (都立小金井公園内) TEL 042-388-3300

集合時間：13時(食事をすませてきてください)

日 程：資料館入り口外集合(13時)→展示見学→現地解散(16時30分頃)→最寄り駅で懇親会

講師：松井 かおる氏(江戸東京たてもの園学芸員)

●参加ご希望の方は、9月30日(水)までに葉書もしくはメール(本会報末尾をご参照下さい)でお申し込みください。その際、懇親会参加の有無をお書き添え願います。

メトロポリタン史学会第11回総会・大会報告

2015年4月16日(土)に、首都大学東京 南大沢キャンパス 本部棟1階・大会議室において、第11回総会・大会が開催されました。大会の参加者は35名(懇親会18名)でした。

まず午前10時30分から小谷汪之氏を議長に選出して総会が始まり、2014年度活動報告、会計決算、監査結果、2015年度活動方針案、予算案、委員候補者が順次提案され、承認されました。議論では今後の会のありかたについて意見が出され、引き続き委員会で討議することが確認されました。

大会シンポジウムでは、趣旨説明の後、「戦後の歴史と歴史学」というテーマで以下の3氏の報告が行われました。

戸邊秀明氏(東京経済大学)「戦後思想としての「戦後」史叙述—1950年代史を焦点として—」

鄭 栄桓氏(明治学院大学)「朝鮮現代史」は可能か—解放前後史像の再検討—」

白川耕一氏(國學院大学兼任講師)

「歴史家の世代とドイツ連邦共和国の歴史像—第二次世界大戦後から現在まで—」

報告の詳細については、後掲の大会参加記をご参照いただくとして、いずれの報告も有意義な問題提起となっており示唆に富み、全体討論も下田淳氏、佐々木紳氏、三品英憲氏からのコメントを交え、参加者を含めて活発に行われました。

メトロポリタン史学会第11回総会議案書(2015.4.18)

[メトロポリタン史学会 2014年度活動報告]

2014.4~2015.3

1. 会誌『メトロポリタン史学』第10号を2014年12月に刊行し、史学科のある大学を中心に約80機関に寄贈した。
2. 第10回総会・大会(シンポジウム現生人類の北東アジアから日本への最初の進出—DNA証拠、人類化石証拠、そして文化残滓証拠は同じストーリーを語るのか?—)を2014年5月17日(土)に開催した。参加者30名(懇親会17名)。また、第11回総会・大会(2015年4月18日、シンポジウム「戦後の歴史と歴史学」)を準備した。
3. 第2回若手研究者の集いを2014年11月22日(土)に実施した。内容は報告3本、書評2本であり、参加者は24名(懇親会15名)であった。
4. 第7回歴史探訪「国立ハンセン病資料館見学」を2014年12月7日(日)に実施した。参加者7名、懇親会6名。
5. 会報16号(2014.10.24)、17号(2015.3.26)を発行した。
6. 会員数は現状維持にとどまり、拡大目標(165名)を達成できなかった。

[メトロポリタン史学会 2015年度活動方針案]

2015.4~2016.3

1. 会誌『メトロポリタン史学』第11号を2015年12月に刊行する。特集は、第11回大会シンポジウム「戦後の歴史と歴史学」の各報告とする。論文の投稿を促すとともに、時評、書評などの掲載に努める。
2. 第3回若手研究者の集いを2015年11月21日（土）に開催する。報告要旨を会誌に掲載する。
3. 第8回歴史探訪を2015年10月4日（日）に実施する。
4. 第12回総会・大会（2016年4月23日）を準備する。
5. 165名を目標に会員拡大に努め、会財政の確立を図る。
6. 必要に応じて委員の補充を行う。

[メトロポリタン史学会 2015・16年度委員名簿]

任期：2015.4～2017.3

会 長：木村 誠
 副 会 長：中野隆生, 奥村 哲, 山田昌久
 事 務 局：赤羽目匡由（事務局長）, 前田弘毅, 大沼 巧
 編 集：河原 温（責任者）, 佐々木 真, 澤田秀実, 月脚達彦, 福田千鶴
 企画・研究：源川真希（責任者）, 森田喜久男, 白川耕一, 山岡拓也, 千葉正史
 監 事：義江明子, 中嶋 毅
 顧 問：佐々木隆爾, 小谷汪之

メトロポリタン史学会 2015年度予算					
2015.4.1～2016.3.31					
[収入]	<u>964,913</u>				
	前年度繰越金				155,913
	会費				789,000
		一般会員	5,000 ×	120	600,000
		学生・院生	3,000 ×	12	36,000
		未収分	5,000 ×	30	153,000
			3,000 ×	1	
	叢書販売		2,000 ×	10	20,000
	合計				964,913
	*予定会員数：165名（一般150, 学生・院生15）				
[支出]	<u>964,913</u>				
	会誌制作費				500,000
	通信料金				109,600
		会誌郵送	180 ×	220	39,600
		大会案内・会報等発送			50,000
		葉書・切手			20,000
	事務用品代				20,000
	賃金・旅費				50,000
	雑費				20,000
	借入金返済				150,000
	予備費				115,313
	計				964,913

メトロポリタン史学会 2014年度決算報告

		2014.4~2015.3	
[収入]		2014予算	2014決算
前年度繰越金		43,555	43,555
会費		789,000	612,000
	2008年度以前	(現金) —	5,000
		(銀行) —	0
		(郵便振替) —	35,000
	2009年度	(現金) —	5,000
		(銀行) —	0
		(郵便振替) —	5,000
	2010年度	(現金) —	0
		(銀行) —	0
		(郵便振替) —	0
	2011年度	(現金) —	5,000
		(銀行) —	0
		(郵便振替) —	10,000
	2012年度	(現金) —	5,000
		(銀行) —	0
		(郵便振替) —	15,000
	2013年度	(現金) —	10,000
		(銀行) —	0
		(郵便振替) —	73,000
	2014年度	(現金) —	35,000
		(銀行) —	0
		(郵便振替) —	359,000
	2015年度以降	(現金) —	0
		(銀行) —	0
		(郵便振替) —	50,000
雑収入		20,000	16,137
	会誌売り上げ	—	2,500
	叢書売り上げ	20,000	2,000
	銀行口座利息	—	1
	その他	—	11,636
計		852,555	671,692
[支出]		2014予算	2014決算
会誌制作費		500,000	357,750
郵便料金		99,600	110,820
	会誌発送	39,600	33,264
	大会案内・会報等発送	50,000	51,174
	葉書・切手	10,000	26,382
	その他	—	0
事務用品代		20,000	4,229
賃金・旅費		50,000	15,000
雑費		20,000	2,812
	振込手数料	—	432
	弁当・お茶・紙コップ	—	2,380
予備費	懇親会会場運営費	162,955	25,168
次年度繰越金		—	155,913
	現金	—	85,544
	銀行	—	10,729
	郵便振替	—	59,640
計		852,555	671,692
※この他に、佐々木隆爾、小谷汪之両氏より各 150,000円 の借入金がある。 ●会員数 148名 (一般140名 学生・院生 8名) ●会費納入率 14年度・80/148=54.1% 13年度・108/150=72.0% 12年度・106/150=70.7% 11年度・124/153=81.1%			

【シンポジウム参加記】

第11回大会シンポジウム「戦後の歴史と歴史学」の参加記が大沼巧氏から寄せられました。お忙しいにもかかわらず原稿を執筆してくださった大沼氏にお礼申し上げます。



大会参加記

東京大学大学院人文社会系研究科

韓国朝鮮文化研究専攻（歴史文化）博士課程 大沼巧

今回のシンポジウムでは「戦後の歴史と歴史学」という命題に関し、日本史・東洋史・西洋史から各1名、その分野に関して優れた見識を持たれている方の発表をうかがうことができた。

まず、簡単に各発表の要旨をまとめたい。

戸邊秀明氏は「戦後思想としての『戦後』史叙述－1950年代史を焦点として」という題目で発表した。戸邊氏は、「戦後」史の記述が開始され始めた1950年代から近年に至るまでの「戦後」史研究を概説的でありながらも要点や問題点を適切に指摘しながらまとめた。今回のシンポジウムの狙いを反映したとても刺激的な内容であった。特に、「戦後歴史学、マルクス主義は終わった」という言葉で、「パラダイムは転換したのではなく、消滅した」ということを忘れていてのではないか、という問題を提起した近年の研究の紹介などは興味深かった。また、それらを受けて今後の歴史学の課題を考えようとする問題意識は門外漢の私にとっても非常に参考になった。

鄭榮桓氏は『朝鮮現代史』は可能か－解放前後史像の再検討－という題目で発表した。鄭氏は、はじめに「朝鮮現代史」は可能か、という問題を提起した。これは、いまだに南北分断されている朝鮮半島という地域を扱う研究者の多くがもつ疑問だろう。その上で、鄭氏はこうした根本的な困難を抱えながら進められてきた韓国・北朝鮮、日本での朝鮮史研究を中心に近年の研究動向も含めてわかりやすく解説した。「民族」や「地域統合」といった朝鮮史に限らず、歴史学が抱える大きく複雑な問題に対する理解を深めることがで

きたと思う。

白川耕一氏は、「歴史家の世代とドイツ連邦共和国の歴史像—第二次世界大戦後から現在まで—」という題目で発表した。白川氏は、第二次世界大戦後にドイツ史がどのように叙述されてきたのか、ということを知りやすく整理したうえで、そこに含まれる問題点や課題を指摘した。特に興味深かったのは、ドイツが統合された後でも、ドイツ現代史を書こうとする時、東ドイツ人の視点がしばしば忘却され、まだ書かれていない、ということである。歴史叙述の難しさを改めて認識させてくれる内容であった。

個別発表が終わると、下田淳氏・佐々木紳氏・三品英憲氏の三氏より報告に関連したコメントが提示された。三氏ともに、それぞれの専門に即した興味深いコメントをしてくださり、個別の議論としてもたいへん充実したものであったと思う。ただし、私がこうした議論を通じて終始感じたのは、歴史叙述の難しさである。一国史的歴史観を乗り越えようとしても西側（主に欧米）になろうとする「グローバル化」にしかかかっていないのではないかと、外国史を扱う日本人としての視点が必要なのではなかろうか、など、分野・時代にかかわらず、歴史学をやる上で必ず考えなければならないであろう問いが出され、議論された。難しい問題であるので、少なくとも私の聞いた限りでは今回の討論会で答えは出なかったと思う。しかし、考慮すべき多くの問題が、さまざまな地域を研究している専門家たちの間で語られたこと自体に大きな意義があったように感じられる。

以上のような点において、歴史学を学ぶ一人として、今回のシンポジウムに参加できたことはたいへん良い経験となった。今後も、メトロポリタン史学会で、こうした活発な議論が続けられることを期待したい。

【投稿のお願い】

本会では、会員の皆様の積極的なご寄稿をお待ちしています。広く、歴史研究・教育の諸領域にかかわる内容のものを求めます。

『メトロポリタン史学』(The Metropolitan Shigaku) 投稿規定

- (1) 本誌は、年一回12月に発行するものとし、原稿の締切は、毎年8月末日とする。
- (2) 投稿資格は、原則として会員に限る。ただし、編集委員会からの依頼原稿に関してはこの限りではない。
- (3) 投稿言語は、日本語または英語とする。
- (4) 投稿原稿は、歴史学・考古学、歴史教育の分野に関する以下の種目のものとする。
 - ①論文（図表を含み、24,000字以内；英文の場合は、8,000語以内）
 - ②研究ノート・史料紹介（同 12,000字以内；英文の場合は4,000語以内）
 - ③学界動向（8,000字以内；英文の場合は2,700語以内）
 - ④時評・提言（4,000字以内）
 - ⑤書評（4,000～8,000字）
- (5) 論文、研究ノート（縦書き、横書きいずれも可）には、欧文で要旨（300語以内）を添付する（原文が英文の場合は日本語要旨800字以内）。また目次用の英文タイトルを付記する。
- (6) 原稿は、編集委員会が採否を決定する。その際、論文、研究ノートについては、編集委員会および編集委員会が委嘱した査読者の審査を経る。

- (7) 著者校正は、初校のみとし、校正時における文章の大幅な変更は認めない。
- (8) 注は、末尾にまとめる。
- (9) 原稿は原則として、印字された原稿（表、図表を含む）3部、USBメモリなどの記憶媒体及び別記送り状*（1部）を提出する。
- (10) 掲載の論文、研究ノート・史料紹介、学界動向については、別刷り50部を進呈する。
- (11) 原稿の送り先、照会については、

〒192-0397 八王子市南大沢1-1 首都大学東京 都市教養学部 人文・社会系

国際文化コース（歴史・考古学分野）、河原 研究室気付

『メトロポリタン史学』編集委員会

Tel: 0426-77-2119（河原研究室） Fax: 0426-77-2112

E-mail: kawara28@tmu.ac.jp（河原温研究室内）SNC47077@nifty.com（河原温）

* 送り状は学会ホームページ（<http://www.geocities.jp/metropolitanshigaku/>）からダウンロードしたものをコピーするか、事務局にお問い合わせください。

メトロポリタン史学会 第三回若手研究者の集いのお知らせ

一昨年から新たな企画として始めました「若手研究者の集い」が、来る2015年11月21日（土）に第3回目を迎えるはこびとなりました。若手研究者の研究報告と、書評との二本立てで構成されるこの企画も、回数を順調に重ね若手研究者の発表と交流の場として徐々に定着してきたと言えるかと思えます。詳細については追って会員の皆様にご連絡いたしますが、若手研究者に限らず、奮ってのご参加をお願い申し上げます。

【事務局からのお願い】

●メトロポリタン史学会会報第18号をお届けします。第11回大会・総会報告と、第8回歴史探訪および第3回若手研究者の集いのご案内をいたします。奮ってご参加ください。引き続き会財政健全化のため、年会費を年度内にお支払い下さいますようお願いいたします。一般5,000円、学生・院生3,000円です。

メトロポリタン史学会（会長 木村誠）

〒192-0397

東京都八王子市南大沢1-1

首都大学東京 都市教養学部 人文・社会系 国際文化コース 歴史・考古学分野内

TEL: 0426-77-2110（赤羽目匡由研究室） E-mail: mshigaku@tmu.ac.jp

ホームページ: <http://www.geocities.jp/metropolitanshigaku/>

郵便振替: 00100-0-537287 メトロポリタン史学会